

大飯原発の定期検査延期 関電地元懸念踏まえ

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、8日から予定する関西電力大飯原発3号機（おおい町）の定期検査が2〜3カ月程度延期することが決まり、関電の水田仁・原子力事業本部長代理が1日、県庁で野路博之・安全環境部長に延期について報告した。

水田代理は、定期検査に向けて多くの作業員が県外から集まるため、地元から懸念の声が上がっていることなどを踏まえ「延期を判断した」と説明。

野路部長は「感染防止対策を個人任せにしては実効も上がらない。関電は

嶺南地域の一員として、しっかり管理の目を行き届かせてほしい」と要請した。

一方、市民団体「原発問題住民運動福井県連絡会」がこの日、関電や県に対し、原発の定期検査を延期するよう申し入れた。

申入書によると、原発は通常運転時で1500人規模、定期検査時には約3千人の作業員が働き、「密閉、密集、密接（3密）」の環境にさらされると指摘。「労働者からコロナウイルス感染が発生したら、地元はもとより県民にも被害が広がる」としている。

（堀川敏部）